

集落における無意識の「えづけ」を止めてわずか1年で被害ゼロを実現！ 一熊本県玉名市上有所集落一

- 県で進めている「えづけSTOP！」対策を地域ぐるみで実践し被害軽減を図った。
- 具体的には、①放任果樹の除去、②適切な防護柵設置、③対策技術の普及啓発を地域ぐるみで実施。
- 加えて、ICTを用いた大型囲い罠を設置し効率的な捕獲を実現。

上有所集落の課題

<初期の自発的取組>

- ・イノシシ被害を受け、個人ごとに金網柵、電気柵等を整備
 - ・箱罠やくくり罠による捕獲、猟犬による追い払い、銃器による駆除を実施
- いずれも効果が現れず八方ふさがり

個人での取組の限界感

<地域でまとまった取組みへ>

- ・地域内の生産者がまとめ、補助事業を活用した侵入防止柵を設置
 - ・猟友会に協力を要請し、多数のイノシシの捕獲を実現
- それでもイノシシ被害は拡大

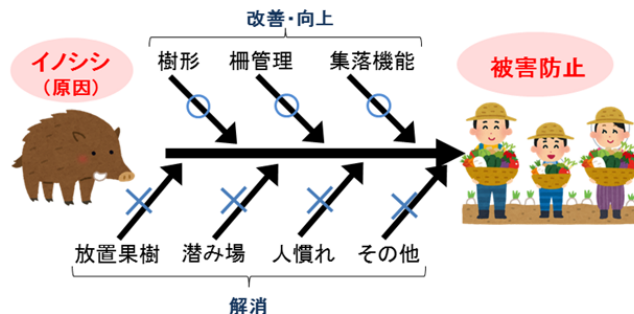
あきらめず
これまでの取組を見直

- 地域がまとまって一つの方向へ
→連携
- 既に取組みができている地域に学ぶ
→気付き
- これまでの取組みの誤りを検証
→学び

主な対策

○地域ぐるみの鳥獣被害対策

- ・みんなが参加する勉強会の開催
- ・学びを確認する実証展示ほ場の設置
- ・ブロックごとに担当配した効率的柵管理
- ・守れる柵にするための剪定技術講習
- ・えづけ解消に向けた環境整備
(放任果樹園解消、廃棄果樹の管理等)
- ・潜み場解消に向けた集落点検 等



○大型囲い罠設置による効率的な捕獲

- ・侵入防止柵の効果的整備で捕獲が向上
→鳥獣の捕食環境の悪化で罠のエサへ誘導
- ・ICTの活用で常時罠の監視が可能に
- ・リアルタイムの遠隔操作で捕獲効率が向上

対策の効果

①鳥獣被害の軽減

- ・平成28年に本格的な取組みを開始
- ・平成29年には被害ゼロを実現し現在も継続

②取組みの定着

- ・被害ゼロを実現したことが住民の自信に
- ・鳥獣被害対策への意識や意欲が変化
- ・住民自ら改善点を見つけ対策を実施

③鳥獣被害対策を意識した生産活動

- ・鳥獣被害対策を意識した樹園地管理の実践
(例)
樹木から道路までの緩衝帯確保
柵の整備を想定した新植 (間隔を考慮)

④集落の活性化

- ・県内外からの視察受け入れ
- ・新たな組織「たまなイノシシ」の結成
- ・ブロック化による柵管理で住民の連帯強化



「たまなイノシシ」の活動



県外からの視察者

集落における無意識の「えづけ」を止めてわずか1年で被害ゼロを実現！ — 熊本県玉名市上有所集落 —

◆誰がどのように

地域住民が被害の拡大に危機感を持ち取り組みを開始。

◆何をやれば被害が減るのか全くわからない…

他地域に実践事例があるので、しっかり学ぶことから始め、我々にできることから柔軟に取り入れて行きたいという意欲

◆鳥獣対策発生のメカニズムに気付く

捕まえてもらうことだけでは、被害は減らない、自分たちでもやれることをしっかりやることから始めることの大切さを認識

きっかけ

・これまで目立たなかったイノシシによるかんきつ類への食害が徐々に拡大し地域の課題として急浮上。

Step1 (H25) 捕獲中心の対策に着手

○地元住民が主体となって、捕獲を強化した対策と侵入防止柵の整備に着手。
→捕獲だけでは被害が減少せず、むしろ拡大。閉塞感が漂う。

Step2 (H28～) 先進事例の調査

○地域ぐるみの活動で被害を止めた熊本県内の事例を調査。
○事例調査に当たっては、行政(玉名市、熊本県)も協力。

Step3 (H28～) 地域の合意形成

○県内の優良事例地区の育成・指導に当たった指導者を招聘した研修会を開催。
○正しい知識を地域住民が共有し、住民主体で取り組みがスタート。

被害の原因とやるべきことが明確化され住民のやる気アップ

取組に当たっての秘訣

- 正しい知識を身に付け、正しい順番で取組みを進めていけば、農作物被害は必ず止められることを知って欲しい。
- 当地域は、本格的な対策に取り組むわずか1年で被害ゼロを実現。
- 人任せにせず、まず、地域に住むみんなが出来ることを、一緒になってやっていくことが重要。やるべきことをやって、やれないことがあれば行政や狩猟者に協力をお願いすべき。
- 捕獲だけで被害は減らない。捕獲する場合は、「山の10頭より、里山の1頭」を意識し、加害獣の捕獲に努めることが被害軽減に直結。



Step4 (H29～) 守れる集落・樹園地づくり

○研修で学んだ適切な集落及び樹園地の改善や潜み場解消を集落ぐるみで実践。
→これまでイノシシを引き寄せていたエサの除去に集落ぐるみで着手(緩衝帯の整備や果樹の枝の剪定、ひそみ場の解消)
○効果的で管理のしやすい侵入防止柵の整備。
→ブロック化して施工を行うことで、管理者を明確にすることで持続的な管理体制を確立。

被害が激減

Step6 (H30～) 県内の優良事例に

○鳥獣対策に取り組む有志が「たまなイノシシ」を結成。視察の受入れや研修会での講演を実施。
○果樹を新植する際、鳥獣対策を意識し、いつでも柵の整備ができるように道路から少し離して植えるなどの工夫が集落全体に定着。
○当地域は、農業コンクールで地域貢献賞を受賞。

取組を経て…

Step5 大型捕獲罠による効果的な捕獲

○これまで、園地に放置されていた廃棄果樹を大型捕獲檻の中に廃棄。(トリガーはICTで管理)
→エサを求めるイノシシが効率的に罠に入りやすくなり、捕獲数が増加。

えさと潜み場の解消が被害軽減に直結することを実感

将来に向けて

- 鳥獣被害ゼロを実現できた現在の環境を地域住民が力を合わせて維持し、イノシシからとりもどした農家の誇りと自信を再び無くさないようにしていく。
- 被害に悩む地域の視察は、積極的に受け入れを行い、取組みの輪をどんどん広げていきたい。